

山北の魅力を発信！ 知られざる“若者”のチカラ



山北地区において、よく耳にする課題として、①若い人がいない、②外部への情報発信・PRがあまり得意ではない、ということが挙げられます。まちづくり協議会でもその課題に頭を悩ませているところですが、今回はそんな課題に希望が持てる“若者”の活動をご紹介します。

万代グルメストリート

10月12日から14日の3連休に新潟市万代で開催された「万代グルメストリート」。この中で新潟公務員法律専門学校の生徒たちが特設ブースを設け、県内各地域の特産品等のPRを行いました。

山北のブースを担当したのは専門学校に通う山北出身の生徒たちを中心としたメンバー。トチ餅やアク笹巻の物産販売をしながら、自分たちで作った特製の紹介パネル（上記写真）を片手に元気いっぱい山北の魅力を来場者に発信していました。生徒からは「自分では当たり前のものが、素晴らしい魅力を持っていることに喜びを感じ、地元のすばらしさを再確認することができた」という声が聞かれました。

山北を離れていても地元への情熱を持った若者のチカラがこれからの山北を後押ししてくれています。



明治大学「生明祭」

今年で7期目を迎えた明治大学農学部小田切ゼミの学生による山北での「農村調査実習」。普段は学校の中で議論する学生たちが農村の現場に入り、実態を調査し、自ら体験・感じたことを基に議論を重ね、当地域にさまざまな提言や指摘をいただいています。

昨年のこの実習で「けんさ焼き」と「赤カブ漬け」を食べた学生がそのおいしさに感動し、自分たちだけでなくもっと大勢の人に味わってもらいたいということで10月22日から24日に行われた「生明祭」(学園祭)でゼミ生たちが販売、PRを行いました。

「この赤カブなかなか食べられない」「けんさ焼きは東京でも売れるのでは?」「山北へ行ってみたい」という声が出るほどの反響だったので、明治大学の若者のチカラが関東での山北の情報発信に大きな効果を発揮してくれました。



さんぽくまちづくり通信

第 7 号

発行 山北地区まちづくり協議会

発行日 平成 25 年 (2013 年) 12 月 13 日

事務局 村上市 山北支所 地域振興課 自治振興室 (住所) 〒959-3993 新潟県村上市府屋 232 (TEL) 0254-77-3111 (FAX) 0254-77-2217 (E-mail) s.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp



1 赤かぶつみ体験 2 田植え体験 3 マニアに人気の鉄道の撮影ポイント(基石) 4 けんさ焼き体験

山北には魅力がいっぱい

辞書で「魅力」を調べてみると、「人の心をひきつけて夢中にさせる力」とあります。山北を訪れる人から「山北は魅力がいっぱいだね」とよく言われます。豊かな自然、おいしい食べ物、人情豊かな人、昔ながらの農作業や普段の何気ない生活まで、数え上げればきりがなくたくさん魅力が山北にはあるのだと思います。

皆さんは山北の魅力は何だと思いますか。皆さんの集落や身の回りにも訪れる人が見たら魅力的なものがたくさんあるのではないのでしょうか。便利で楽に生活できる地域ではないかもしれないけれど、こんなに魅力がいっぱいのすばらしい地域に生活しているということに自信と誇りを持っていいのではないのでしょうか。

編集後記

“光陰矢のごとし”とはよく言ったもので、師走も、もう半ば。今年もあとわずかとなりました。今年一年を振り返ると皆さんにもいろいろなことがあったかと思えます。

まちづくり協議会にとって今年は、部会を中心に本格的に事業を開始した年となりました。良かったこと反省すべきことを踏まえ、来年も協議会の目的である「住んでよかったと思える地域(集落)」をめざして活動を展開します。ぜひ、大勢の皆さんの参加をお願いします。



私たちは支援を利用してこんなことをしました!

避難路整備事業 (基石集落)

階段の材料となる木材や塗料などの費用に助成金を利用し、集落住民で協力して、急斜面な避難路に階段を設置しました。
(集落の元気づくり支援)



板垣昭一さん(集落総代)

東日本大震災を機に集落から「逃げる場所がないので整備しよう」という声が上がりました。補助により今までの集落活動を維持しながら整備が行えたこと、そして皆でやり遂げた達成感から集落のまとまりに繋がったことを嬉しく思っています。

活動の様子



土の下に防草シートを張ったり、手すりをつけるなど2ヶ月間汗しました(8/18)

環境整備事業 (大沢集落)

ゴミ小屋の制作費として助成金を利用しました。古いゴミ小屋の解体、撤去などを集落のみなさんの協力で行いました。
(集落の元気づくり支援)



佐藤義夫さん(集落総代)

ゴミ小屋の戸や床が腐食して危ないため、網などで手づくりしようかと思っていた頃、7割の補助で新しいゴミ小屋を作ることができました。隣の集落センターがきれいなので、集落の景観を保つこともできてみんなで喜んでいます。

活動の様子



「いいものこしょでくれでありがど」と、おばあちゃんに総代さんが声をかけられました

古館城PR事業 (古館城跡保存会)

古館城のPRのため、のぼり旗の制作費に助成金を利用しました。のぼり旗のデザイン、設置を会員の協力により行いました。
(集落の元気づくり支援)



達田益三さん(保存会会長)

「古館城」という地域の財産を守っていくため公園などの整備を行なってきました。この宝が人から人へ受け継がれるためにも、多くの人に足を運んでもらえるようPR活動を続けていきたいと思います。

活動の様子



山北中学校3年生が地域貢献活動として登山道の整備やのぼり旗を設置しました(10/17)

さんぽく祭 (さんぽく祭実行委員会)

宣伝広告費などに助成金を利用し、山北の特色が詰まった山北の顔となる祭りを目標に地域の協力を受けて開催しました。
(地域づくり団体活動支援)



板垣純一さん(山北商工会事務局長)

昨年産業団体と協力して「軽トラ市」を実施するなど内容を工夫し、PR活動にも力を入れて開催してきました。今後もこの祭りから「山北の魅力」を発信し、「山北の元気のもと」となるように地域の皆さんと取り組みます。

活動の様子



2,000人の来場者で今年も賑わいました。(11/10)

26年度の申請を受け付けます

平成26年度の「集落の元気づくり支援事業」、「地域づくり団体等活動支援事業」の申請受付を開始しました。集落等で計画する新たな事業や、これまで継続して実施している事業に助成金を利用しみんなで集まって多くの“笑顔”を山北に広げましょう。

申請期限: 平成26年2月7日(金)まで
対象: 集落や集落内団体及び地域づくり団体
内容

対象経費の50%を支援します。お問い合わせは山北地区まちづくり協議会事務局(山北支所地域振興課自治振興室内)までお願いします。

【山北の暮らし④「わさび」】

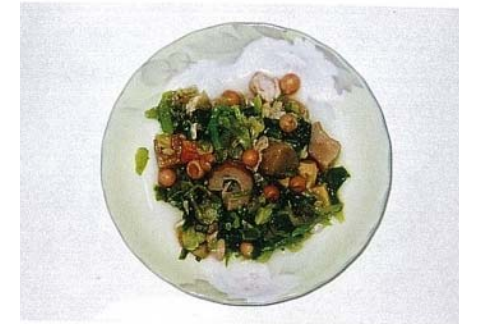
伝え広めたいこの味「わさび」料理

私たちの祖先は、古くから山北の恵まれた自然と共存する中で、人々の舌と心を満たすために自然が育んだ幸をいろいろと工夫して食してきました。郷土料理は、これらの生業と暮らしの中から生まれたもので、今もお営々と受け継がれている料理です。

山北には、「赤カブ漬け」や「アク笹巻」など数多くの郷土料理がありますが、「わさび」料理もそのひとつです。全国的には長野県や静岡県に代表される根わさびをイメージしますが、山北で「わさび」といえばこの料理であり、お正月や秋神楽のときには欠かせない一品で、古くから各家庭で受け継がれ親しまれてきたものです。

手足がかじかむほど寒くなったころ、山々の沢沿いなどに自生する天然わさびを採取し、根っこ、茎、葉を余すところなく活かしておいしい「わさび」に仕上げます。各家庭によって辛さや味が微妙に違うのが特徴で、その違いから団らんにつながり話も弾むこともこの料理の良いところ。

「わさび」料理は、山北ならではの郷土料理として私たちが後世に引き継いでいかなければならない、できればよそにも売り込みたい逸品です。



お正月や秋神楽に欠かせない「わさび」

《協議会の今後の活動予定》

- 1月9日 まちづくり協議会役員会
 - 2月5日 まちづくり協議会理事会
 - 2月14日 まちづくり通信第8号発行
 - 2月10日 助成金交付等審査会
まちづくり協議会役員会
 - 3月15日 地域づくり楽習会
- ※日程等は変更になる場合があります。